

てら 寺 町 ちょう
か だ ま 田

関西国際空港と直結へ

高取川と曾我川に挟まれ慈明寺町の北に位置する当地名は、江戸幕府が元禄一五（一七〇二）年に作った「元禄郷帳」という、全国の村名と生産高（村高）を書き出した帳簿に初登場しています。

そこに「慈明寺村枝郷Ⅱ分村」と注記のあることから当時の寺田村は、元禄郷帳が作られるまでの元禄年間に慈明寺村から分村・独立して生まれたことが分かります。寺田村は以後、明治時代まで独立した農村として生き続けます。

明治一五年ごろの戸数が二三戸（町村誌集）で、同一七年の主産物が米・裸麦・ぶどう・実綿・あい葉など（農産物取調表）でした。そして明治二二年の町村合併に伴い眞菅村大字となり、大正時代を経て昭和の世を迎えています。昭和三一年二月に檀原市へ編入され同年一〇月から「檀原市寺田町」となりました。

慈明寺村から独立・分村した古い歴史を物語るように、慈明寺町に鎮座する天神社（慈明寺隣）が寺田町の鎮守様です。また、同町の南端を国道一六五号大和高田バイパスが横切って走っています。バイパスから南阪奈道路を経てやがて、関西国際空港と直結する予定です。